

マナセ・ベン・イスラエル（「[ヘブライの館](#)」）

「アムステルダムのユダヤ人学者。メシアの到来とイスラエルの苦難からの解放を待ち望む熱心なルリア派の**カバラ主義者**だった。1655年にピューリタニズムの支援者であるオリバー・クロムウェルの招待を受けて、イギリスに渡る。当時のピューリタンは、千年王国が1656年に到来し、その前提としてユダヤ人のキリスト教への改宗があると信じていたので、マナセ・ベン・イスラエルのメシアニズムは、ユダヤ人のイギリス帰還に扉を開けるものであった。ちなみに、**天才画家のレンブラント**はアムステルダムのユダヤ人地区に何年間も住んでおり、しばしば作品にユダヤ人、そして聖書の中のユダヤを描いたが、**マナセ・ベン・イスラエルと深い交流があった。**」

●1642年に「清教徒革命」（ピューリタン革命）が起きると、1655年に、オランダのアムステルダムのユダヤ教のラビ（**マナセ・ベン・イスラエル**ら）が、イギリスのオリバー・クロムウェルの政府に、**ユダヤ人のイギリス復帰の嘆願書**を提出し、イギリス政府の黙認の下にユダヤ人がイギリスに再渡来し始めた。

（このユダヤ人の渡来は、1290年に追放されて以来の画期的な出来事であった）。

これ以降、ユダヤ人は急速にイギリスで地歩を築いていった

※この記事を読むと熱心なピューリタンとされていたクロムウェルが、イギリスへのユダヤ人帰還を主導していたと言う意味合いより、それ以前から、もともと**ピューリタン勢力そのものがイギリスへのユダヤ人帰還を準備画策していた**ことが窺えます。クロムウェルは、このピューリタン勢力の意向の上に乘せられていたように感じるのです。クロムウェルが首謀者とされるピューリタン革命の実際を理解する鍵としては、マナセ・ベン・イスラエルたちカバリストの「黒い貴族」と「ピューリタン」が実際にはどのような関係にあったかに注目し、探ることが必要になるでしょう。これは各自が調べて確認すべきことですが、**カルヴァンがユダヤ人だった**との情報は幾つもあります。**カルヴァン派のプロテスタントとは「黒い貴族」が狙った先を侵略するための先兵役として作られたように見受けられます。カルヴァン派のプロテスタントが「ピューリタン」として英国に入ってきた時点で、英国の侵略は既に開始されていたように思えるのです。**